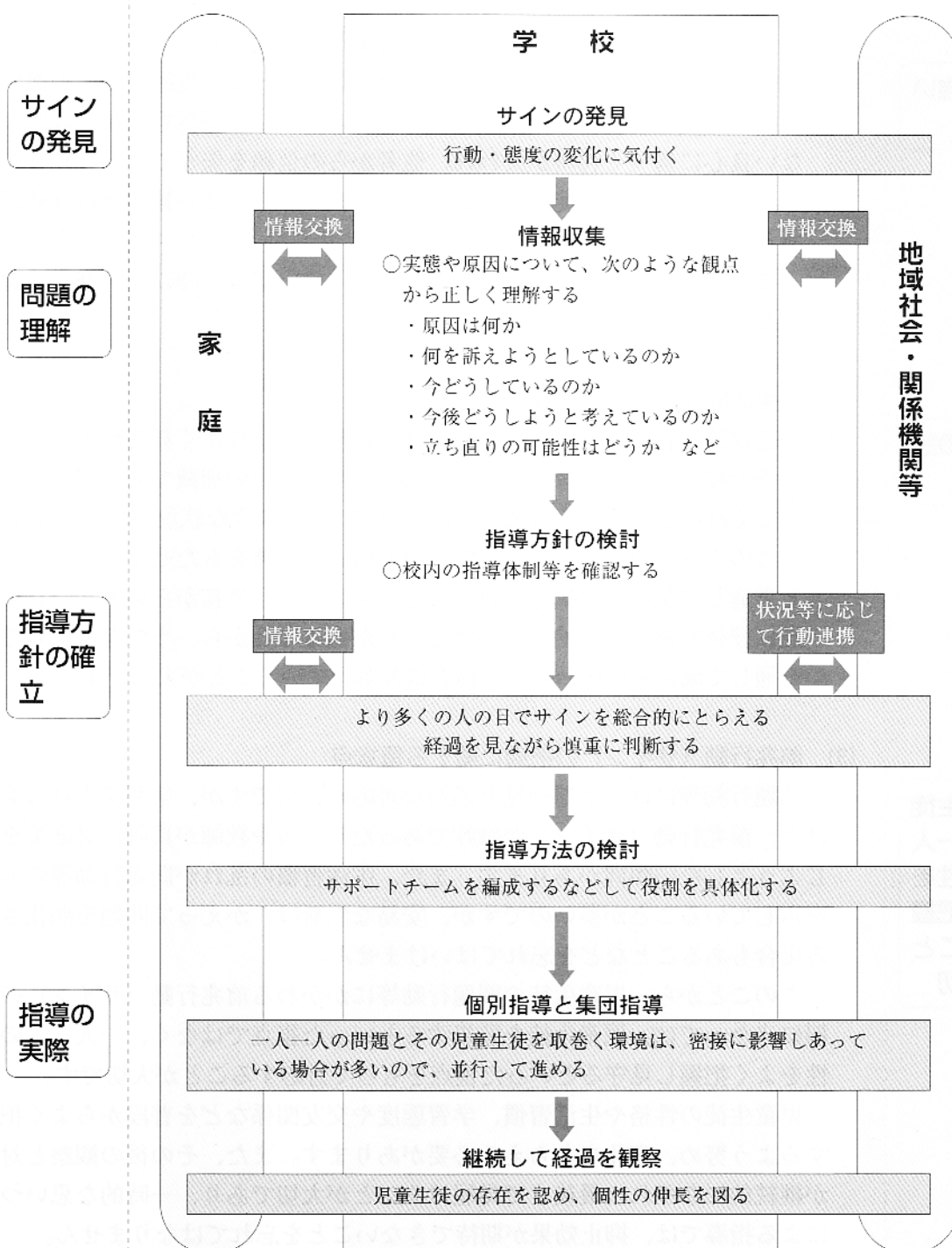


5 前兆行動（サイン）を受け止めた基本的な指導の在り方

児童生徒の指導に当たっては、問題行動等の前兆行動（サイン）をできるだけ早期に発見し、適切な対応や指導方法を具体的に検討してかかわっていくことが大切です。

児童生徒の様子で少しでも気になる変化があった場合には、その変化を前兆行動（サイン）と受け止め、一人で抱え込まず校内の組織に発信するとともに、様々な情報を共有化して対応することが大切です。

(1) 対応のポイント



(2) 問題のとらえ方と指導の在り方

ア いじめ ～ 迅速な事実関係の究明が大切！

いじめは、いじめられている児童生徒だけでなく、いじめを行っている児童生徒や見ている児童生徒をも深く傷付けます。また、いじめは、外から見えにくい形で行われることが多いため、その兆候を見過ごしてしまう危険性があります。

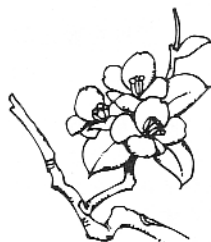
児童生徒のいじめに関する前兆行動（サイン）を受け止めたときは、友人などからの事実関係の把握を迅速かつ正確に行う必要があります。また、「弱いものをいじめることは人間として絶対に許されない」との認識に立ち、すべての児童生徒に対して生命や人権の大切さを指導するとともに、悩んでいるとき、困っているときには積極的に相談することが大切であることを日頃から徹底させる必要があります。



イ 不登校 ～ 連携による支援が大切！

不登校は、どの子にも起こり得るものです。また、その要因・背景は多様なため、個々に応じた適切な対応が必要です。学校、家庭、関係機関等が連携協力し、児童生徒がどのような状態にあり、どのような支援を必要としているのか正しく見極め、支援していくことが大切です。

未然防止の観点から、小学校では、家庭との連携の下に基本的な生活習慣を身に付けさせること、中学校では、思春期の問題への対応をきめ細かく行うことなど、児童生徒の発達段階に応じた指導を行う必要があります。



ウ 暴力行為等 ～ 望ましい人間関係の醸成に努めることが大切！

日常的に目立つ粗暴な言動等からの問題行動に加えて、一見「おとなしく目立たない」児童生徒が内面に不満やストレス等を抱え、ある要因によってそれが爆発するといった形の問題行動があります。

暴力行為等に及ぶ児童生徒には、不満や不安などの感情が多く認められることから、児童生徒の心の揺れや悩み、不安等を柔らかく受け止め、児童生徒自らが自身の力で問題を解決することができるよう、教師と児童生徒との望ましい人間関係の醸成に努めることが大切です。



エ 自殺等 ～ 特に春先に注意すること！

自殺や自傷行為には、内面的な葛藤や家庭的、社会的な悩み、自殺願望等様々な要因が考えられます。特に春は、進学、進級等により、環境が変化することや緊張感などから、精神的にも不安定になりがちのため、心配される児童生徒には声かけをして反応を観察したり、友人や家庭から情報を集めたりすることが大切です。

自殺防止については、日頃から教育活動全体の中で、計画的、組織的に生命の大切さや尊さについて指導することが大切です。

